

わたしたち大人は、現在と未来を生容こそ大切だという考えもあります。生きる子どもたちと、どのようにかわかっていけばよいのでしょうか。それを考えるためには、子どもがどのような生き方をするのかという前提が必要です。自分らしく生きるのか。経済的に豊かに生きるのか。人を思いやり、心豊かに生きるのか。前提を考えてみるだけでも、様々な方向やアプローチがあることに気づきます。

さて、どのように生きたいかは、子どもが決めることです。親の影響、家族の絆、積み重ねた体験、友人との関係、習得した知識や描いた夢によって決めていくのでしょうか。これからの時代は、変化が激しく予測するのが困難であると言われています。急激に進化する人工知能は、人間の仕事を奪いかねません。今は存在しない職業も生まれることでしょう。私たち大人は、どのような生き方をするかということに對するアドバイスをすることも必要ですが、変化の激しい時代の中で自分の人生を自分で充実させるような生き方ができるように支援や援助をすることが大切なのではないのでしょうか。

日本の子どもは欧米や近隣アジア諸国の子どもに比べて自己肯定感が低いというデータがあります。豊かな人生を送るためには、自己肯定感が必要であるという考えがある一方で、自己受容こそ大切だという考えもあります。失敗も短所も含めたありのままの自分を受け入れることで、人生を充実させることができるという主張にも納得できます。映画『アナと雪の女王』の挿入歌レット・イット・ゴーは、ありのままの自分を信じて歩き出す意志を歌ったものです。大ヒットした理由は、多くの人が自己受容することの大切さに共感したからではないのでしょうか。

子育てでは、子どもを誉めることが大事であるという考えがあります。誉めることでやる気が出たり自信がついたりします。反対に、誉めることは自律心を奪い、誉められることに依存する人間を育ててしまうという考えもあります。大人が同じ目線になって感謝することで、自律的になり、生きていく勇気を獲得するというのです。自己肯定感を高めるのか、自己受容を大切にするのか。誉めるのか、感謝し勇気づけるのか。その全てをバランスよく使うのか。環境によっても子どもによっても違うでしょう。私たち大人は、自分の都合ではなく、子どもに寄り添い、広い視野をもって子どもたちとかわり、子どもたちとともに未来を考えていきたいものです。

連載・青少年健全育成シリーズ 第322回

「子どもたちの未来のために」

青少年への声かけ・あいさつ運動の推進
『大人も子どももすすんであいさつをしよう』

毎月第1日曜日は「家庭の日」
毎月第3日曜日は「青少年を育む日」です。
青少年育成都留市民会議編集委員

広報「つる」広告募集！

あなたのお店の広告を広報つるに載せてみませんか？
広報「つる」は、都留市内の各家庭に配布されています
(10,500部発行)ので、多くの方の目に触れます！

問合せ：総務課 法制広報担当

広告料金

掲載場所	印刷色	金額/枠	備考
裏面	カラー	20,570	2カ月掲載
内面	2色刷り	10,280	2カ月掲載

掲載月は、①1・2月②3・4月③5・6月④7・8月
⑤9・10月⑥11・12月の6パターンとなります。

掲載状況は、下記をご参考としてください。

また、詳細につきましては、ぜひお問い合わせください。

広告掲載欄

広告掲載欄